《手彩色石版画『メニュ』ペンキ屋》（部分）
リトグラフ、紙

来日 130 周年　宇都宮美術館コレクションによる

ジョルジュ・ビゴーと日光

Georges Bigot et Nikkô

2011年 12月 10日（土）～ 2012年 1月 29日（日）

主 催：財団法人 小杉放菴記念日光美術館／日光市／日光市教育委員会／下野新聞社　協 力：宇都宮美術館
休館日：毎週月曜日（祝日・振替休日のときは開館し、その翌日を休館）
年末休館 12 月 26 日（月）～ 31 日（土）／年始休館 1 月 4 日（水）～ 6 日（金）

◆お正月も開館します！
正月三が日（1 月 1 日～ 3 日）の期間、美術館エントランスホールにおきまして、双六や福笑いをはじめ、かるた、百人一首、コマまわし、だるま落とし、けん玉、羽根突き、凧あげといった日本の伝統的なお正月の遊びの無料体験や、お楽しみ福引といった催し物を開催いたします。

入館料：一般 700（630）円、大学生 500（450）円、高校生以下は無料　（　）内は 20 名以上の団体割引料金
開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

※会期中、東日本大震災の影響による計画停電が実施される場合、その時間帯は展示室を閉鎖いたしますので、あらかじめ御了承ください。

《日光 東照宮の祭》 水彩・墨・鉛筆、紙

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO

小杉放菴記念日光美術館
日光市山内 2388-3　TEL. 0288-50-1200
http://www.khmoan.jp/

ジョルジュ・ビゴーと日光
Georges Bigot et Nikkô

フランス人画家ジョルジュ・フェルディナン・ビゴー（Georges Ferdinand Bigot,1860 ～ 1927）の名は、日本人にとってたいへん馴染みある画家として記憶されています。たとえば、明治の日本を記録した諷刺画家として。

日清戦争直前における極東の緊張関係を諷刺した《漁夫の利》は、今では歴史の教科書に必ずといってよいほど使用される有名な諷刺画として、私たちに強いイメージを与えています。しかし、彼が 17 年間にわたって日本で生活した画家であったことや、なぜこうした諷刺画を描いたのかということについては、どれだけ知られているでしょうか。

1882（明治 15）年、ビゴーは日本絵画を研究することを目的に来日しました。そして横浜や東京を転々とし、陸軍省の学校で図学を教え、中江兆民の仏学塾でフランス語教師を勤めるなどしながら、諷刺画集や諷刺雑誌の刊行を始めます。なかでも雑誌『トバエ』は、《漁夫の利》《社交界に出入りする紳士淑女》などの諷刺画を収める、ビゴーの代表的な刊行物であり、この雑誌のなかで彼は、深く愛し、またときには憎むことすらあった明治の日本人の姿を、当時のどんな画家よりも素直に描きだしています。そのことで非難を受けることも少なくなかった彼の諷刺画の数々は、現代の日本漫画史のなかでは高く評価されており、また明治の風俗を知るうえでも、たいへん貴重な史料となっています。

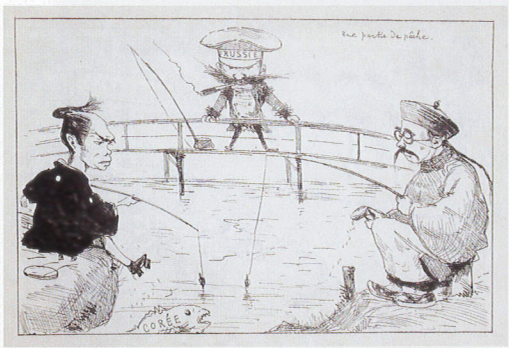
一方でビゴーは、フランスやイギリスへ日本社会の情勢や文化を伝える、一人のジャーナリストでもありました。福島県の磐梯山大噴火、岩手県の三陸大津波など、明治期におきた大災害、そして日清戦争の戦場へと、危険をかえりみずに現場を訪れ、的確なデッサン力に基づくスケッチで、災害に苦しむ被災者の姿や、戦地の兵士たちの姿を克明に記録しています。これらのスケッチをもとにビゴーは、報道用の絵画として仕上げ、フランスの『ル・モンド・イリュストレ』紙や、イギリスの『ザ・グラフィック』紙へ送っていました。このほかにも、ビゴーは東京や横浜に生きる人々の生活や、鉄道が開通する直前の日光街道の風景、宇都宮の軍事演習の様子など、様々なものを取材しています。

本展覧会では、宇都宮美術館のビゴー・コレクションの中から選りすぐった作品を展示し、画家でありジャーナリストでもあったビゴーの眼を、皆さんに体感していただきたいと思います。

《諷刺自画像》 ペン・鉛筆、トレーシングペーパー

《東京一番町十二番地 フランス公使館の火災》 1887（明治 20）年 水彩・ペン・鉛筆、紙

《花見帰りの二人連れ》 水彩・ペン・鉛筆、紙



《漁夫の利（原題：釣りの勝負）》『トバエ』第 1 号（1887 年 2 月発行）より 石版、紙

《三陸大津波 大船渡の惨状（2）》 1896（明治 29）年 水彩・鉛筆、紙

《宇都宮 大軍事演習》 1893（明治 26）年 水彩・ペン・鉛筆、紙

《日光 馬返しの宿 つたや》 油彩、キャンヴァス

交通案内：
東武日光駅、JR 日光駅から清滝・細尾、中禅寺・湯元、西参道（東照宮）方面行きバス 5 分
神橋停留所より徒歩 3 分 日光宇都宮道路・日光インターから約 2 km

◆イベント：2012 年 1 月 14 日［土］ 午後 2 時より
記念講演会「ビゴーを本当に知っていますか？」 山口順子氏（メディア史研究者）

ビゴーは、あるフランス人を日光へ案内する前、晩餐の余興に歌を聴かせたといいます。いったいどんな歌だったのでしょう。永年ビゴーを追いかけてきた研究者に、ビゴーの実像についてわかりやすくお話いただきます。
入館料のみでご参加いただけます。お時間までに受付前にお集まりください。